

2021年度 学内リサイタル講座 特別演奏会 成績優秀者によるスペシャル・コンサート

—4年生によるジョイント・リサイタル—

2022年3月9日(水)

開場 17:00 開演 17:30 (20:00 終演予定)

洗足学園 前田ホール

主催 洗足学園音楽大学・大学院

※写真、ビデオ等の撮影および録音は固くお断りいたします。

△ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

ご挨拶

2021年度 学内リサイタル講座 特別演奏会 成績優秀者によるスペシャル・コンサートにお越しいただきありがとうございます。

本日演奏する学生達は、昨年6回にわたる前田ホールのコンサートシリーズで審査を経て選ばれた7名です。審査は様々なコースの教員で行われ、専門性だけでなく、音楽性、表現力、パフォーマンス力、舞台マナーなど様々な角度からの評価が行われました。演奏家を目指す若者にとって、大きな緊張感の中で、自分の音楽への責任を背負ってソロで舞台に立つことこそ成長への大きなステップとなります。

ご来場の皆様には、本日のバラエティーに富んだプログラムを楽しんでいただければ幸いです。また、将来の活躍が期待される若いソリストにあたたかい拍手をお願いいたします。

洗足学園音楽大学 学部長
小嶋貴文

本日は「学内リサイタル講座 特別演奏会 4年生によるジョイント・リサイタル」においていただき御礼申し上げます。

洗足学園音楽大学では学部4年生を対象に「学内リサイタル講座」を開設し、前期5～7月は学内シルバーマウンテンで、後期9～11月には1000人収容の前田ホールにおいて、学生自主企画のジョイント・リサイタル形式による演奏会を開催しています。

本日出演する木管・金管・打楽器そしてピアノの代表者7名は、前田ホールで行われた全6回（42名）の演奏会から演奏評価により選抜されました。文字通り本学を代表する学生として、卒業を前にそれぞれの腕前を披露する絶好の機会と思っております。

御来場のお客様には、今後世界に羽ばたく若人を、温かい拍手で見守っていただきたいと思っております。

学内リサイタル講座担当 教授（フルート）
渡部 亨

プログラム

1. 今川 萌 Imagawa Moe (サククス)

ピアニスト・大嶋 千暁

J. マッキー/ソプラノサクソフォンとウインドアンサンブルのための協奏曲 第 1, 2, 4, 5 楽章
J. Mackey (1973-)/ for Soprano Saxophone and Wind Ensemble 1st&2nd&4th&5th

2. 岩井 心 Iwai Shin (トロンボーン)

ピアニスト・曾根 恭子

P. クレ斯顿/トロンボーン幻想曲 Op. 42
Paul Creston (1906-1985)/Fantasy Op. 42

3. 近藤 花音 Kondo kano (マリンバ)

A. トーマス/マーリン

Andrew Thomas (1939-)/Merlin

-休憩-

4. 吉野 萌 Yoshino Moe (マリンバ)

ピアニスト・林 英希

P. ファウラー/ミチユキ

Paul Fowler (1978-)/Michiyuki

福田洋介/さくらのうた

Fukuda Yosuke (1975-)/SAKURA Song

5. 加藤 幸恵 Kato Yukie (ピアノ)

C. ドビュッシー/12 の練習曲より「5本の指のために(チェルニー氏による)」

Claude Debussy (1862-1918)/ 12 Etudes "Pour les cinq doigts, d'après M. Czerny"

A. ヒナステラ/ピアノ・ソナタ 第1番 第1, 3, 4 楽章 作品 22

Alberto Ginastera (1916-1983)/Piano Sonata No. 1 1st&3rd&4th mov. Op. 22

6. 清水 涼花 Shimizu Suzuka (フルート)

ピアニスト・横山 歩

L. ガンヌ/アンダンテとスケルツォ

L. Ganne (1862-1923)/Andante et Scherzo

G. ユー/ファンタジー

G. Hue (1858-1948)/Fantaisie

7. 前澤 美里 Maezawa Misato (ファゴット)

ピアニスト・森 りか

J. N. フンメル/ファゴット協奏曲

J. N. Hummel (1778-1837)/Grand Concert for Bassoon

プログラムノート&プロフィール

1. J. マッキー/ソプラノサクソフォンとウインドアンサンブルのための協奏曲 第 1, 2, 4, 5 楽章
J. Mackey (1973-) / for Soprano Saxophone and Wind Ensemble 1st&2nd&4th&5th

この作品の作曲者である J. マッキーは 1973 年 10 月にアメリカのオハイオ州ニューフィラデルフィア市に生まれた。ジュリアード音楽院及び、クリーヴランド音楽大学卒業。ジョン・コリリアーノ、ドナルド・アープに師事する。彼は、オーケストラや吹奏楽曲以外にもモダン・バレエやダンスのための作品も多く手がけている。

本日演奏するソプラノサクソフォンとウインドアンサンブルのための協奏曲は、J. マッキー自身がサクソフォンから感じたモチーフをそれぞれの楽章で表している。1. プレリユード 2. フェルト 3. メタル 4. ウッド 5. フィナーレ 彼にとってサクソフォンという楽器はハイブリッド楽器であると語る。2, 3, 4 楽章はそれぞれサクソフォンの構造から感じ取ったものを表現している。また、5 楽章は彼が師事したジョン・コリリアーノ氏の作品であるクラリネット協奏曲の引用である「ソナタ・ピアン・エ・フォルテ」の引用をヒントに作曲したそう。本日は作品の中の 1, 2, 4, 5 楽章を演奏する。各楽章のタイトルと曲調をリンクさせながら聴いていただきたい。



今川 萌 Imagawa Moe

秋田県秋田市出身。秋田県立秋田南高等学校卒業。
9 歳よりサクソフォンを始める。これまでに成田徹氏に師事。フィリップ・ガイス氏のマスタークラスを受講。ジャズサクソを佐藤達哉氏に師事。室内楽を貝沼拓実に師事。母校とのリサイタルコンサートなどを通して音楽活動を広げている。

2. P. クレストン/トロンボーン幻想曲 Op. 42
Paul Creston (1906-1985) / Fantasy Op. 42

ジュゼッペ・グットヴェッジョ (以下クレストン) は 1906 年にニューヨークで生まれる。幼少期からピアノとオルガンを嗜んだが、貧しい移民の家庭で生まれたため音楽理論の正式な訓練は受けられず、独学で楽譜を研究し作曲を習得した。のちに教会のオルガン奏者になり、指揮者、講演者としても活躍した。

クレストンの作品はリズムをスタイルの要とし、現代的な不協和音と特徴的なポリリズム、豊かなハーモニーなどで知られる。

この曲は、全世界の金管奏者が憧れ、トロンボーン界のトップに君臨しつづけるジョゼフ・アレッシが 1990 年にニューヨーク・フィルとのソリストデビューを果たした際に演奏した曲である。



岩井 心 Iwai Shin

神奈川県出身。千葉県立市川昂高等学校卒業。
10歳よりトロンボーンを始める。2019年ヨルゲン・ファン・ライエンアカデミーを受講。トロンボーンを小田桐寛之氏、室内楽を佛坂咲千生、府川雪野の各氏に師事。

3. A. トーマス/マーリン Andrew Thomas (1939-)/Merlin

エドウィン・ロビンソンの詩「マーリン」に触発されて作曲されたマリンバソロのための曲。

多くの国が混乱している時代に、「アーサーがこの地を統一する」と予言を受けたマーリンが、アーサーを守るため様々な困難に立ち向かう物語。この曲はその混乱した世界と、魔法という神秘的なものが表現されている。



近藤 花音 Kondo kano

埼玉県出身。埼玉県立芸術総合高等学校音楽科卒業。
14歳からマリンバを始める。マリンバの他にも和太鼓部 鼓弾やスティールパン部 Pan Note Paradise にて色々なジャンルの音楽に触れている。

第23回「万里の長城」国際音楽コンクール第2位(1位なし)。これまでにマリンバ、打楽器を藤井里佳氏、藤井むつ子氏、中村祐子氏に師事。

4. P. ファウラー/ミチユキ Paul Fowler (1978-)/Michiyuki 福田洋介/さくらのうた Fukuda Yosuke (1975-)/SAKURA Song

「ミチユキ」は、マリンバ奏者である高田直子氏の為にP. ファウラーが作曲したものだ。この曲は、近松門左衛門の人形浄瑠璃「曾根崎心中」がモデルとなっている。タイトルの「ミチユキ」は、心中を意味する「道行」。

舞台は江戸時代前半の大阪、醤油問屋で働く主人公・徳兵衛と遊女であるお初は恋人同士だったが、醤油問屋の主人である叔父は徳兵衛を姪と結婚させようとしていた。お初といたいのなら、徳兵衛の母に握らせていた金を返せと叔父は言う。その金を徳兵衛の友人に騙され、返すことが出来なくなった徳兵衛とお初は、大阪に留まることが出来なくなってしまう。お初は徳兵衛に迫った。どうせ生きて結ばれることが出来ないのなら、愛をまっとうして一緒に死のうと。自分のために命を断とうというお初の心に、徳兵衛は心中を決心する。

この曲は、徳兵衛とお初が曾根崎で自殺したところから始まるのだが、このプロローグにいくつか伏線が隠されている。奏者は南無阿弥陀仏を詩い、鳥を呼んで橋を作ったり、心中のバラード、稲妻のように飛ぶ幽霊などの表現をたくさんするため、表現力・演技力が必要で、私自身非常に難しかった1曲だ。

2人はあの後、極楽浄土に行けたらどうか。離れ離れにならずに、愛し合っているだろうか。

そんな気持ちを、僭越ながら2曲目の「さくらのうた」にのせて、想いが届くように表現したい。この曲は、元は福田洋介氏による吹奏楽曲なのだが、今回演奏するのはマリンバソロのために編曲されたものだ。

毎年ちょうどこの季節に咲く桜は、当然だが散る未来がある。美しく咲くその姿はとても素敵だが、それはもちろん長く続かず、やがて終わりを迎える。彼らだってそうだろう。破滅を避けることは出来なかった。だから散る覚悟を決めた。散った後はまた新しい命が咲くように、彼らが別の世界で生まれ変わったと私は信じたい。

今回は「命」をテーマにしたプログラムでかなり重めだが、この2つの作品に対する色々な想いが、徳兵衛とお初、そして皆様にかつどうか届きますように。



吉野 萌 Yoshino Moe

千葉県出身。千葉県立小見川高等学校卒業。

部活動にて中学より打楽器を始める。高校時、第31回千葉県吹奏楽個人コンクール金管打楽器部門において金賞、審査員特別賞(ヤマハ賞)、賛助会長賞(グランプリ)を受賞。第23回長江杯国際音楽コンクール打楽器部門最高位。大学にて前田記念奨学金、前田音楽奨励賞を授与。これまでにマリンバを神谷百子、椎名友樹、打楽器を佐藤由に師事。

5. C. ドビュッシー/12の練習曲より「5本の指のために(チェルニー氏による)」
Claude Debussy (1862-1918) / 12 Etudes "Pour les cinq doigts, d'après M. Czerny"
A. ヒナステラ/ピアノ・ソナタ 第1番 第1, 3, 4楽章 作品22
Alberto Ginastera (1916-1983) / Piano Sonata No. 1 1st&3rd&4th mov. Op. 22

C. ドビュッシー/12の練習曲より「5本の指のために(チェルニー氏による)」
チェルニーの練習でなじみのいくつかのモチーフを模し、チェルニーへのオマージュとなっている。

A. ヒナステラ／ピアノ・ソナタ 第1番 作品 22

1954年にアメリカ人作曲家ロイ・ハリスとその妻に捧げられた作品である。

第1楽章「Allegro marcato」

ソナタ形式。第一主題は強い意志と誇り高さを感じさせ、第二主題は少し悲しげなメロディが牧歌風に奏でられる。

第2楽章「Presto misterioso」

この冒頭は十二音技法になっており、神秘的な響きと不気味な雰囲気は何とも個性的である。

第3楽章「Adagio molto appassionato」

ギターの開弦の音型で静かに始まり、闇の世界へ吸い込まれるような曲。

第4楽章「Ruvido ed ostinato」

ロンド形式。〈無骨に荒々しく、そして頑固に執拗に〉と記された通り非常に激しく血湧き肉躍る曲。

本日はこの中から第1, 3, 4楽章を演奏する。



加藤 幸恵 Kato Yukie

横浜市出身。あずさ第一高等学校卒業。

5歳よりピアノを始める。2021年度特別選抜演奏者認定。客員教授の小林仁、グヤーシュ・マルタ、ルイス・フェルナンド・ベレス、各氏による特別レッスンを受講。学内ピアノアンサンブルコンペティション2台4手にて最優秀賞を受賞。これまでにピアノを根廻真奈美、八島とも子、各氏に師事。現在ピアノを門倉美香氏に師事。

6. L. ガンヌ/アンダンテとスケルツォ

L. Ganne (1862-1923)/Andante et Scherzo

G. ユー/ファンタジー

G. Hue (1858-1948)/Fantaisie

L. ガンヌ/アンダンテとスケルツォ

ルイ・ガンヌは C. フランクと T. デュボワに学んだ、フランスの劇場指揮者でオペラ作曲家である。彼のオペラ作品はフランス以外の国ではよく知られていないが、彼は行進曲の作曲家として名が知られており、「勝利の父」と「ロレーヌ行進曲」の2つはフランスを代表する愛国的なマーチとして今日も親しまれている。

この曲はパリ音楽院卒業試験用に作曲された。曲は題名の通りアンダンテとスケルツォの2つの部分から成る。哀愁漂う雰囲気アンダンテが始まり、愛らしくも切ない動きのある旋律が混じりながら短いカデンツァへと繋がる。その後のスケルツォは明るく軽快な3拍子でフランスらしく、ご機嫌にスキップしながら街を見て回るような、春のような希望に満ちてウキウキとした気分になる。最後にテーマは転調しクライマックスを迎えて華やかに曲は閉じる。

G. ユー/ファンタジー

ジョルジュ・ユーはガンヌと同じく C. フランクや C. グノーに学んだフランスの作曲家であり、声楽曲を多く残している。

この曲もパリ音楽院の試験曲であった。冒頭、突然フルートのカデンツァ風のモチーフが現れるという始まりが印象的である。フランスのファンタジーという題名の曲らしく漂うような旋律や幻想の中にいるような雰囲気は持ちつつ、怪しげな旋律やパワフルな部分がありドラマチックな作品だと感じられる。この曲はオーケストラ伴奏版もあり、ピアノ伴奏の楽譜の中にはオーケストラでの楽器名が細かく記されていることから色彩豊かな効果を目指していることが分かる。

また、彼自身東洋を好んで旅行することが多く、この曲の中にもそれが表れていると感じられる部分がある。そしてそれはヨーロッパの人達から見た東洋のイメージであり、この曲の独特な雰囲気の魅力と世界観を生んでいる要因の一つだろう。東洋色も感じられるこの曲は日本人の私たちにとって親しみやすいのではないだろうか。



清水 涼花 Shimizu Suzuka

岐阜県出身。飛騨学園高山西高等学校卒業。2020年第25回KOBE国際音楽コンクールC部門(大学生・一般)木管楽器部門奨励賞受賞。これまでにフルートを盛一明子、前田綾子、ピッコロを菅原潤の各氏に師事。室内楽を辻功、山根公男の各氏に師事。

7. J. N. フンメル/ファゴット協奏曲

J. N. Humme (1778-1837) | Grand Concert for Bassoon

J. N. フンメルは、オーストリアの作曲家。ピアニスト。存命中はヨーロッパ最高の作曲家、ピアニストに数えられていた。数多くの優れた弟子を通じ、19世紀全般のピアノ奏法に大きな影響を与えた。

フンメルは本作品を通してファゴットの限界を測ろうとしていたと言われている。当時の開発途中の楽器でこの曲を演奏するのは決して容易では無かったであろう。

第一楽章 Allegro moderato

伸びやかなメロディの中に、随所に跳躍が用いられており、楽器の特徴が存分に発揮される。特に最後のオクターブのパッセージはこの楽器ならではの奏法ではないだろうか。

第二楽章 ROMANZA, Andante e cantabile

作者が声楽曲も多く手がけていたことを思わせる、歌心溢れる楽章。最後はファゴットの最低音で音楽全体を支え、この楽章を締めくくる。

第三楽章 RONDO, vivace

古典的なロンド形式。徐々にオーケストラ(本日はピアノ)とファゴットの掛け合い、音数が増え、フィナーレに向けて鼓動が高鳴っていく。



前澤 美里 Maezawa Misato

静岡県出身。静岡市立清水桜が丘高等学校卒業。
12歳よりファゴットを始める。第37回 静岡県学生音楽コンクール入選。第20回日本ジュニア管打楽器コンクール第3位。第6回 K 木管音楽コンクール 準優秀賞受賞。2020年度前田音楽奨励賞、前田記念奨学金を授与。グスタヴォ・ヌニェス氏のマスタークラスを受講。ファゴットを吉田誠、石川晃、岡本正之各氏に、室内楽を辻功、山根公男各氏に師事。現在オーケストラ特待生にて本学在籍。

